TAKE FREE

第02号 二〇一七年八月

月報 書生閑話

monthly newsletter shosei kanwa　第二号　本郷版　2017.08

地元町会の夏祭りで焼きそばを焼いた話

「鉄板が熱い！水蒸気も熱い！油が爆ぜて熱い!!」と散々文句を垂れつつ、実のところは心底楽しく焼きそばを作らせていただいたお話です。

書生として本郷に移り住む以前の僕にとって、「夏祭り」というのは概念上の存在でした。そんな状態で町会の夏祭りに参加してみると、初めて体験するリアルが眼前に広がっていました。魚屋がかき氷を削り、床屋が焼鳥を炙り、郵便屋が綿飴を巻き付ける。金魚すくいに没頭する小学生、売り子として屋台を盛り上げる中学生。見よう見まねでお手伝いをする僕ら大学生に、キンキンの缶チューハイを差し入れてくれるおじさん。すべてが温かく、新鮮そのものでした。

個人的二大初体験のひとつが、冒頭の大鉄板焼きそば作り。熱に頭がクラクラするも、ソースの香りに釣られるお客さんの顔が見たくて、気付けば全食焼き終えていました。もうひとつは金魚すくい。幼少期に幾度挑戦するも全敗を喫していた私が、運良く五匹掬い上げられたのです。嬉しさに乗じて自室へ迎え入れる覚悟を決めまして、今日も元気に私の横で鉢を泳ぎ回るに至っています。㊥

本郷地域のまちづくりを進めるNPO法人街ing本郷には、書生生活というユニークな制度があります。

http://shosei.tokyo

本郷の街は書生生活を応援しています。一緒に書生を応援してくださる大家さん・不動産屋さんなどを大募集。ご連絡は下記よりどうぞ。

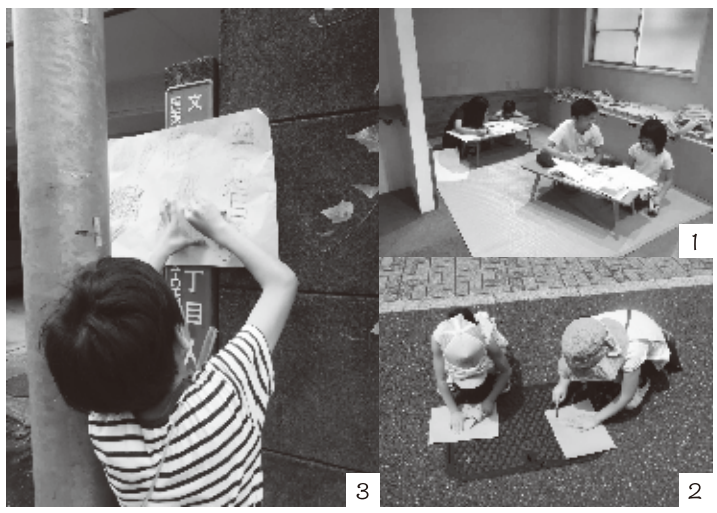
mating-hongo@nifty.com

書生のまち活動日誌

「学童保育ツリー・アンド・ツリーさんで育まれる 地域の子どもと書生、世代を超えた夏休み」

七月二十三日は学童保育のツリー・アンド・ツリーさんで開催の夏休み宿題相談会。小学生五名が参加してくれました。各々が興味のあるテーマを持参し、私たち書生が助言しながら、一緒に自由研究のまとめ方やスケジュールを考えていきます。ヒエログリフや統計学、ゼンマイ時計に関心のある子どももいて、八才くらいの子たちの成熟した関心に驚きました。私が小学生だった頃、夏休みの宿題は最終日ギリギリに終わらせる性分でしたが、二十四歳になった今もあまり変わっていません。ですが今年は本郷に住み始めて初の夏休み。目標は「毎朝ラジオ体操に参加！」です。

また、七月二十五日はツリー・アンド・ツリーさんの企画「学生のお兄さんお姉さんと一緒にまちをフロッタージュ！」に参加。お天気に恵まれ、十二人の子どもたちと本郷のまちを歩きました。凸凹したマンホールや看板、タイルを見つけては夢中になってクーピーでゴシゴシ紙に写し取る子どもたち。郵便屋さんの配達バイクも対象物に。予想以上の子どもたちの熱中ぶりは微笑ましい光景でした。地域の子どもとよそから来た書生。このマッチングが世代を超えた友情を育むきっかけになりそうです。㊋



1：宿題相談会のようす。みんな真剣です。
2～3：まちの色々なところでフロッタージュをする子どもたち。
夢中で写し取っています。

書生コラム

明治の堕落、下宿屋。（上）

明治の書生と聞くと「勉学に励んでいた苦学生」というイメージが強いわけですが、では一方、明治の「下宿屋」はどんな状況だったのでしょうか。下宿屋には、所謂（いわゆる）下宿賃を支払える学生が主に居住しており、まあ要するにある程度お金に余裕がある家の子供が住んでいたわけです。

そういう下宿屋は、実は明治に社会問題になっていました。学生の「風紀頽廃（たいはい）」を招く元凶だというのです。少し雑誌や書籍を見てみましょう。

「下宿屋生活…堕落の根源」
（明治二十六年『東京修学案内』）

「下宿屋は悪書生等の巣窟然たるもの往々之」
（明治三十五年『東京遊学案内』）

「今の下宿屋は…『罪悪の養成所』ならんか」
（明治四十年『下宿屋の改良（一）』）↘

↖「一度不規律なる下宿屋に入れば、各種の恐るべき魔力に誘はれ識らず知らず淫邪の淵に堕落」
（明治四十二年『最近調査男子東京遊学案内』）

なるほど、「各種の恐るべき魔力」ですか……。確かに坪内逍遥も酒、肉、博打、麻雀、女……様々なる娯楽に興じる書生・学生の姿を描いています。意外に明治の学生は奔放だったわけですね。下宿屋というのはあくまで人が住んでナンボの商売。取り締まるどころか、むしろ学生の堕落を助長しダラダラと下宿賃を貪（むさぼ）る下宿業者もあったそうです。ひどい話だ。

現代の学生諸君、「魔窟」にはびこる「各種の恐るべき魔力」に勝てていますか？私は無理です。（次号に続く）㊌

書生のイキツケ 「うどんこくわがた」

一人暮らしをしている私は何を食べようかとよく迷う。そんなときの合言葉は「困ったらこくわがた」である。週に三、四回はこくわがたでうどんを食べている。今回はなぜ私がこんなに通っているのか理由を考えてみた。

その一　うどんがおいしい

シンプルにおいしい。うどんも天ぷらもおいしい。メニューも豊富。

ちなみに私のオススメは冷大ＨＧ。

その二　うどんが安い

安くて量が多い。育ち盛りの若者や、身体を大きくしたいスポーツマンにオススメ。実際に東大の運動部の人がよく来ている。

その三　店員がフレンドリー

これが一番大きいかもしれない。何度も通っていると顔を覚えてもらえ、店員と仲良くなれる。一人で食べに来ても寂しくないし、私ぐらいのレベルになるともはや家に帰るのと同じような感覚になっている。さらに常連になるとうどんの量や天ぷらをサービスしてもらえることも…

絶大な人気を誇るため、店の前に行列ができていることが多い。しかし行列に並ぶだけの価値はあると思う。本郷に住んでいるなら、本郷に通っているなら、こくわがたに行ってみてはいかがでしょうか。㊏

店舗情報

こくわがた
■住所：文京区本郷 2-39-7　エチソウビル
■営業時間：平日 11:00-21:30
土曜 11:00-15:00

のぞきみ・書生生活

FILE 2：屋上のハンモック

私たちが住む下宿には、屋上があります。本郷の大通りから離れているおかげで、周りの建物やマンションも少し背が低いのです。本郷にこんな空が広い場所があるとは。

いつも梅雨が終わると出てくるのがハンモック。暑い夏ですが、夕方から夜にかけての風はとても涼しいものです。疲れた日はここでゴロゴロ。時によっては夜そのまま寝てしまうことも……。㊌

ハンモックからの眺め。